令和2年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第二中学校第 1 学年

	授業における課題や学力調査から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題（年度末）
国語	・漢字の小テストに向けて学習する習慣が定着してきた。 ・自分の考えを言葉にして発表する力が乏しく、発言する生徒が固定されている。 ・作文では、原稿用紙の使い方や、話し言葉と書き言葉の区別がついていない等、基本的な部分が定着していない生徒が多く見られる。	・言語活動を充実させ、小集団の中で意見をまとめ発表する訓練をする。 ・原稿用紙を使って書く訓練を繰りかえし行うとともに、添削等を通して書き方を身につける。	意見をまとめ、発表する授業を通して考えの言語化には慣れてきた。しかし、論理的な文章の理解や説明には課題が残る。漢字については、小テスト時は満点を取る生徒が多いが、定着せず、定期考査ではあまり結果がよくなかった。小テスト後の学習について指導する必要がある。
数学	・毎時間、5分間の学習プリントを行うことで基礎的な学力の向上を目指して学習している。しかし、基礎基本の定着には、 継続して指導が必要である。 ・自己肯定感が低く、主体的に取り組む姿勢が低くなっている。	・一からすべて指導するのではなく、自分の言葉で表現できるように、助言という形で問題演習を行っていく。また、基礎学力を向上させるために、毎回、計算演習を行うと共に復習の時間を取っていく。 ・成功体験を重ねることで、主体的に取り組む姿勢を養っていく。	・定期的に計算演習を行っている時期は、解いていくことができていました。しかし、授業のために演習時間を減らしてしまうと、今までできていたことも出来なくなってしまった。次年度も継続する必要がある。 ・自信に繋がった生徒も見られたが、まだ自己肯定感が低く過ごしている生徒が見られる。継続的な指導が必要である。
社会	・指示されたことに対してすぐに取り組む姿勢が出来ているが、地図帳や教科書などから調べる学習を行う際に、個々のスピードが大きく異なる。 ・歴史の人物や用語などの漢字を書くことが難しい生徒が一定数いる。 ・コロナ対応でグループワークがほとんどできなかった。	・地図帳で調べる学習などを繰り返し行い、作業を定着させていく。 ・調べる作業などをする時間の時に、遅れがちな生徒を中心に机間巡視して支援していく。 ・状況を見て、グループワークを増やしながら、意見交換をしやすい環境を作っていく。	・新型コロナウィルス感染症防止のため、グループワークを極力避けながら行ったことにより、学び合いの場面が減少し、個人の意見を言う場面が減ってしまった。 ・単元をまとめる活動には全体的に取り組めるようになってきたが、主体的に取り組む態度を意識して次年度の授業を構成していくことが課題である。
理科	・基礎的な読解力に乏しく、実験結果をわかりやすくまとめることや考察ができない生徒が多数いる。 ・学んだことを発表してプレゼンする力やコラボレーション力に非常に乏しい生徒が多数見受けられる。	・実験後の考察するに「〇〇は△△である。」というように，主語を必ず書くひな型を提示したり，「××の角度と□□の角度の大きさを比べて考察しよう」などと具体的に考察させる際の見方を提示していきたい。 ・モデルなどを班員で協働して発表する機会を増やして、コラボレーション力やプレゼン力をつけさせていきたい。	・考察する際に，「理科の考え方や見方」を具体的に示して考察させることを実施できた。しかし、主語を入れたりすることの徹底はできなかった。 ・モデルなど班員で協働して発表する機会をふ増やすことはできなかった。その前段階である基礎的な知識や考え方の定着にもしっかりと時間を割いていきたい。
音楽	音楽を聴いて言葉で表現する力およびリコーダーの基礎的な奏法が定着してきた。一方で楽器演奏の到達度の差が出始めている。	座席の工夫を行い補習してゆく。学習したこと（音楽用語）を演奏で活かせるように関連性を持って指導する。	和楽器（等・三味線）の体験授業を通じての表現活動に寄り自国の伝統音楽に親しみ音楽に対する意欲・関心を持たせることができた。
美術	・基本的な技能（色・形等の性質の知識や用具の扱い方）や発想力に個人差が激しい。 ・これらを身に付け、自分の表現に生かせるようにする。	・制作スケジュールを毎時間明確に提示する。 ・進度が遅い生徒への声かけを中心に個別指導を行う。	・色や道具の使い方については、色相環や彩度と明度のグラデーションなどでじっくり練習し、基本的な技能は、身に着けさせることができた。 ・毎時間の目標を明確に提示し、おおむねスケジュール通りに進むことができた。
保健体育	①授業規律を定着させる。 ②基礎体力や基本技能をしっかりと身に付ける。	・体育係の指示で集団行動ができ、まわりと合わせて活動すること、協働してお互いに高め合えるような授業展開を計画する。 ・始めに授業のめあて、目標の設定や積極的かつ適切な助言などを行っていく。 ・運動量を確保するためにも、また生徒主体の活動を確保するためにも、マネジメント（準備・移動・待機）の時間が少ない行動をし授業を行ってい	・授業の始めや、安全指導など授業規律の定着をすることができた。生徒がお互いにアドバイスをしあえるような声かけをすると、生徒主体で活動することができた。 ・助言などを行ってきたが、理解力のところで工夫の余地があった。
技術・家庭	・授業規律の定着させる。 ・家庭生活に関心をもち、学習の成果を日常生活の向上に活かせるようにする。 ・日常生活でものづくりの経験が少なく、基本的な技能の個人差が大きい。 ・実習の過程において、最後までやり遂げる力を育てる。	・小学校との連携を図り、技能の定着を図る。 ・授業でのルールや手順をていねいに確認し、繰り返して指導していく。 ・学習のねらいを明確にし、視覚教材を多く取り入れ、より具体的にわかりやすい授業を展開する。また、実習の際はスクールサポートスタッフにも協力してもらう。	・新型コロナウィルス感染症防止対策を講じながらの授業であったが、作業などはおおむね実施できた。 ・技能面では個人差が大きく、授業内だけでの指導は厳しく、技術家庭科ともに放課後の指導も必要だった。 ・家庭科ではスクールサポートスタッフとのTT指導を行ったが、効果があったので次年度も継続したい。
外国語（英語）	・英語に対する苦手意識をもつ生徒もいて、意欲にも差がある。 ・英語に限らず、板書を書き写すことが困難な生徒がおり、個別の支援の必要である。 ・ペアワークやグループワークの活動が制限され、コミュニケーション活動がしづらかった。	・英語の興味を喚起させる取り組みを行う。 ・放課後の個別指導を繰り返し、学習の習慣化を図っている。 ・単元ごとにALTとのコミュニケーションテストを行う。	・単元ごとにALTとのスピーキングテストを取り入れ、帯活動で行っている会話練習の実践の場となり、学習内容の定着に有効であった。 ・「書くこと」が苦手な生徒が多く、来年度も身近な話題で継続的に指導を行っていく。
総合	・今年度は校外学習や職場訪問など学校外で学ぶ機会が失われ、身近な人の職業インタビューとそのまとめ、発表で代替したが、十分に成し得なかった。	・次年度も職場体験は難しいと考えており、代替の学習を検討していく。 ・校外学習は、3年次の修学旅行にもつながる学習なので、可能ならば行いたい。	・キャリア教育として、自己分析、上級学校の進路学習、身近な人のインタビューを実施した。しかし、職場訪問や校外学習ができなかったので、社会に出て活動して得ることができなかった。次年度のカリキュラムに盛り込み実施出来たらと期待する。
道徳	・前向きに授業に取り組んでいて、発問に対し考えている様子が見られるが、ワークシートへの記入がなかなか進まない生徒も見られる。 ・グループでの話し合いはできるが、全体での発表に躊躇する傾向も見られる。	・国語や他教科との連携で、書く力を付けさせていきたい。 ・日ごろから意見を活発に言える環境を整えていく。	・「ココログノート」を活用し、自分の気持ちや考えを文章だけでなくグラフで表す作業も行ったことで、なかなか意見が書けない・言えない生徒もグラフに記すことで考えるきっかけをつくることができた。

令和2年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第二中学校第 2 学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題（年度末）
国語	・漢字の学習や古文の暗誦など繰り返しの訓練は意欲的に取り組み、成果を上げてきた。 ・読解したことをグループでまとめ、発表する活動は意欲的に取り組むが、学力として定着していない。 ・自分の考えを文章で表現する力が乏しく、記述式の問題は無回答の場合も少なくない。 ・言葉の表面的な意味は理解するが、文章の中での使い方やニュアンスを感じ取る力が不足している。 ・	・グループでの話し合いや発表の後に理解度を確認する問題などの対策をする。 ・文章で表現し、互いに交流する活動を単元ごとに取り入れる。 ・調べた語彙を用いて作文をする訓練をする。	・文章から読み取ったことをグループ毎の話し合いにより、さらに文章で表現する活動を行った。短時間で行ったため十分にリハーサルができず、発表の完成度はそれほど高くなかった。発表会で得た情報や考え方を、個人が整理して理解できるようなまとめの授業を工夫したい。授業始まりの漢字練習は自主的に行うよう定着してきた。
数学	・基礎・基本的な計算においては、少しずつだが定着してきた。 ・数量の関係を文字で表すことや、文字が表す意味を理解する力が乏しい。 ・説明文や資料を読み取る力が乏しい。	・授業始めの計算問題（帯活動）は効果が見えてきているので、今後も継続して行っていく。 ・「資料の活用」において、文章で説明したり、発表したりする機会を設けていく。	・授業始めの計算練習は、来年度も継続して行っていく。 ・考えや解き方を説明したり、発表したりする機会を設けることができなかった。来年度は、ICTなども活用しながら、数学的活動の時間を増やしていき、生徒の興味関心を高めるような授業展開を行っていく。
社会	・都学力調査の結果から学習した内容の定着が不十分である。 ・生徒間の意欲に差が生じている。関心を高める題材、指導法の改善が必要。 ・コロナ禍の影響で、グループワークがほとんど行えなかった。	・授業内での帯活動の振り返りの継続、また授業で既習事項に関連することが出た場合は授業内で積極的に扱う。 ・多くの生徒が関心を持つような視覚資料を多く活用する。また、机間指導では支援が必要な生徒を中心にし、活動や学習の遅れをサポートしていく。 ・状況を見て、グループワーク、ペアワークを行	・毎時間5分程度の帯活動は行えた。 ・生徒に考えさせる場面をつくることはできた。 ・まとめでは生徒自身が文章で記入し、考えることを行えている。 ・主発問を中心に発問の取捨選択を行っていく。 ・視覚教材については今後、より多く扱う。
理科	・第一学年に学習した内容の定着が不十分な生徒が居る。 ・生徒にとって未知の分野を、予想する際に「分からない」とさじを投げてしまう生徒が居る。 ・得られた実験結果に主観を入れない客観的な考察をすることに困難がある生徒が居る。	・第二学年に実施する授業内容の中で、第一学年に実施した内容と関連させ、反復学習を行う。 ・予想する際の発問を工夫し、意欲を持たせるとともに、予備知識を事前に用意し、適宜生徒に与えながら予想させる。 ・具体的な考察例を提示し、結果からどこまで判明するかのラインを毎回提示する。	・年度の前半の授業内容（生物分野）について実験を変更、縮小して行ったため、次年度に復習として実施していく予定。 ・課題解決型の授業を実施してきたが、取り組みの姿勢に差が見られたため、ジグソー法を取り入れた。 ・計算が伴う学習活動は、公式などの定着のために反復練習が必要。
音楽	音楽を聴いて言葉で表現する力およびリコーダーの基礎的な奏法は定着してきた。一方でリコーダーの演奏面で到達度の差が出始めてきたいる。	リコーダーの学習においては座席の工夫などをして補習してゆく。音楽的用語と表現活動が一致するように関連付けて指導を図る。	和楽器（箏・三味線）の表現活動を通じて自国の伝統音楽に親しみを持たせ、音楽に関する興味・関心を持たせることができた。
美術	・授業への意欲、基本的な技能（色・形等の性質の知識や用具の扱い方）や発想力に個人差が激しい。 ・これらを身に付け、作品制作に活かすようにする。	・板書、資料、ICTを有効活用し、知識や用具の扱い方を伝わりやすく工夫して全体指導を行う。 ・発想力、想像力を高めるために参考作品等を多く掲示する。	・参考作品や生徒作品を拡大投影機で映したり、パワーポイントで説明したりして、生徒が興味を引く指導ができた。　　・鑑賞の授業で、パワーポイントのクイズを作り、積極的に問題に取り組ませることができた。
保健体育	①授業規律の定着 　授業のきまりや集団行動の意義を理解し、きちんと身につけさせる。 ②応用力をつける 　自己の体力を分析し、課題を設定して進んで取り組むようにさせる。	・リーダーとしての体育係の指示でしっかり活動し、協調してお互いに高め合えるようにする。 ・運動量を確保するためにも、また生徒主体の活動を確保するためにも、マネジメント（準備・移動・待機）の時間が少ない行動をし授業を行っていく。 ・各種目の特性やポイント等の知識・理解を深め、個々の技能や体力に応じた適切な助言や声	・体育係の指示だけでなく、周りの気づいた生徒も率先して活動した。 ・生徒自身が主体的に取り組み、積極的に活動をした。 ・自己やグループの能力を知り、適切な課題設定、及び、主体的に取り組める力を付けさせたい。
技術・家庭	・学習した内容を生活の中で生かせるよう、興味関心を高める題材、指導法の改善が必要。 ・自他の安全に留意して学習に取り組ませる。 ・コロナ禍の影響で、今年度は調理実習を見送った。	・基本的知識と技術の習得のため、実践的・体験的な学習活動を取り入れる。また、長期休業を利用し、学習した内容を活用できるよう課題を設定する。	・新型コロナウイルス感染防止対策を講じながらの授業で、指導内容の大幅変更を余儀なくされ苦労した。 ・技術科ではパソコンやモニターを使用した授業や題材を展開した。次年度は更なるICT活用に挑戦したい。 ・家庭科では調理実習ができなかったが、課題として家庭で実践するという実践に変えた。次年度は、授業で実施
外国語（英語）	・学習の定着を図るための継続的な取組が必要である。 ・自分の考えていることを表現する能力に課題がある。 ・意欲的な態度で授業に参加できる。 ・単語を書く、話す力に課題がある。	・定着を図る取り組みを工夫する。 ・会話の流れを意識させる授業形態を工夫する。 ・具体的に評価を与える。 ・自宅で練習させる取組を工夫する。	ペアーによるコミュニケーション活動や一斉活動による制限もある状況の中、授業時数の確保を保てたことが大きい。 「書かせる、聞かせる、読ませる」指導に重点を置く授業にシフトした。 来年度ITCの活用を実践していきたい。
総合	・職場体験学習が中止になったので、キャリア教育が大きく変更が求められた。	・地域課題であるハンセン病に関する学習を現在進めている。 ・職場体験に代わるキャリア学習として、金融教育プロジェクトを計画し、実施していく。	・金融教育プロジェクトと題して、仮想の通貨、仮想の世の中で企業、イベントの企画運営を行った。 ・働くことの意義や価値を理解すると共に、仕事に対する見識を広め、将来の生き方を考える機会となった。 ・集団活動を通して、自己の責任を果たすことや互いに協力して大切さを学んだ。
道徳	・課題に対してよく考えている。また自分なりの考えを記述している。 ・自分の考えや他者の意見に対しての考えを発言しないため、議論になることがほとんどない。 ・道徳的価値観に触れて考えた事が、実生活になかなか生きてこない。授業内で完結してしまう。	・記述したことを評価していく。 ・学級内での信頼関係を築く。発問の工夫をする。生徒の意見を元にした更なる投げかけを工夫する。 ・地道に授業を続けていく。また、授業での様子を保護者にも発信することで、家庭との連携ができるようにする。	・課題に対し内省したことを実生活に行かそうとする言動が見られるようになった。 ・発言や記述から、課題に対して考えたり感じたりしていることは捉えられる。しかし集団での議論にならないため、思考の深まりや共感が得られにくい。議論する集団作りと授業展開が課題である。

令和2年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第二中学校第 3 学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題（年度末）
国語	・漢字の学習は意欲的に取り組み、成果を上げてきた。 ・自分の考えを文章で表現する力が乏しく、記述式の問題においては求められている文章を書けない生徒が多い。	引き続き書く活動を行い、書き方を定着させるほか、何を書かなくてはいけないのかを考えさせる時間を設ける。	漢字の学習だけではなく、言葉についての学習や文節についても学び、知識を定着させることができた。また、文章を書く力も身に付けることができた。
数学	・5分間の学習プリントを3年間継続したことで基礎的な学力が向上している。 ・基礎的事項を踏まえ、応用する力や長文問題を理解し解決する力が弱い。	・このプリントの扱い方を習熟度コース別にさらに工夫した扱いをしていく。 ・問題を正しく読み取り、想像し、数式を作る力をつけていきたい。	・基礎基本が身につき、計算力が向上した。 ・文章題を扱う機会を増やしていきたい。
社会	〇基本的な知識が定着していないため、判断材料がなく、思考・判断する問題が解けない生徒が多い。 〇学習した内容を丸暗記する学習習慣があり、社会的な事象について、自分なりの考えを持ち、表現する力が弱い。 〇コロナ禍において、ｸﾞﾙｰﾌﾟ活動をすることが難しかった。	〇授業の冒頭で振り返りや一問一答形式の問題集や年表の作成に取り組ませ基本的な知識の定着を図る。 授業の最後に短い文章を書かせ、社会的事象を考察し、表現する練習を積み重ねる。、 〇生徒が閲覧しやすい場所に、分かりやすい内容で編集された学童向けの新聞を掲示し、社会的な事象への興味関心の向上を図る。	〇活動、演習の時間を多く取り入れることで、興味関心を高め、定着に結びついた。 〇映像教材を見た後などに、感想や意見を書く機会を定期的に設けたことで、自分の考えを表現する力が身についた。 〇年間を通して、定期考査で時事問題を出題することにより、ニュースに興味関
理科	・事象の予測など、未知のものに対して、思考することができない生徒が多い。 ・コロナ禍において、グループでの活動が難しく、意見を交換することが難しい。	・段階的に難しいものに挑戦していけるように発問を工夫する。できるという体験を少しずつ積み上げることで難しいものにもチャレンジしようとする姿勢を育てる。 ・ICT機器などを用いて、会話をしなくても情報共有ができる環境などを整える。	・パワーポイントを用いて授業を組み立てたことで、動画や画像を使うことで、イメージをつかみやすくすることができた。 ・難しい問題には初めからあきらめてしまう生徒をどのように問いに向かわせるかが課題である。
音楽	音楽を聴いて言葉で表現する力は定着してきた。音楽の時代背景も理解して鑑賞している。音楽的知識において理解はしていても実際に表現する機会がなく、関連性の認識度が薄い。	・表現活動を通じて、音楽用語や要素の役割りを図る。創作活動では鍵盤楽器を活用し、要素や構成の仕組みの理解を深める。	和楽器（箏・三味線）の表現活動を通じて自国の伝統音楽に関する関心を高めることができた。また、総括として各自、イメージを持って旋律を創作する活動ができた。
美術	・基本的な技能（色・形等の性質の知識や用具の扱い方）や発想力に個人差が激しい。 ・これらを身に付け、自分の表現に生かせるようにする。	・いままで学習してきた技能や知識を復習し、新しい制作に取り組む。 ・発想力、想像力を高めるために参考作品等を多く掲示する。 ・進度が遅い生徒への声かけを中心に個別指導を行う。	・参考作品や生徒作品を拡大投影機で映したり、パワーポイントで説明したりして、生徒が興味を引く指導ができた。　・鑑賞の授業で、パワーポイントのクイズを作り、積極的に問題に取り組ませることができた。
保健体育	①各種目に応じて自己やグループの能力を知り、適切な課題設定、及び、主体的に取り組める力を付けさせること。 また、その中から、リーダーの育成にも努める。 ②充分な運動量を確保し、基礎体力・基礎技術の向上から応用力をつけることに力を入れる。	・マネジメント（準備・移動・待機）の時間が少ない行動を行い、運動量の確保、生徒主体の活動を確保する。 ・運動経験を増やすため、種目ごとに合うトレーニングを準備運動に取り入れていく等、工夫する。	・体育係が中心となり、指示を出して進めることができた。 ・生徒が授業を組み立てられるよう、選択できる場面を多くした。 ・球技のウォーミングアップの仕方を工夫し、運動量を増やす取り組みをした。
技術・家庭	・生活の課題に気づき、今までの学習を活かして問題解決のための工夫ができるようにする。	・授業で学習したことが、生活を豊かにし生活に生かせる知識と技能となるよう、実際の生活と関連付けた授業の展開を行う。	・新型コロナウイルス感染防止対策を講じながらの授業ではあったが、おおむね計画通りに授業を行うことができた。 ・技術科では自粛期間に動画による遠隔授業を試みた。 ・家庭科では、赤ちゃんの力プロジェクトが実施できず代替として映像での指導となってしまった。次年度は実施で
外国語（英語）	・4技能の中で、「書くこと」「読むこと」に課題が見られた。「書くこと」の課題では、テーマに沿って「つながり」と「つじつま」が合わない英文が目立った。また、「読むこと」では概要と要点について、特に要点を理解することが難しかった。	・「書くこと」では、序論、本論、結論の3部構成を意識し、マッピングを活用して英文を書かせるようにする。単文ではなく、複文を使って書かせることでよく詳しく表現できるようにさせる。また、「読むこと」の概要理解では段落ごとに大見出しをつけ、要点理解では、段落の中で筆者が一番言いたいことをまとめるようにする。	・成果として、ディベート活動を取り入れることで、まとまりのある文章につながりとつじつまが合うようになり、さらに正確さが増した。 ・課題として、「読むこと」については概要理解と要点理解を混同することがあったため、概要理解と要点理解を分けて指導すべきだった。
総合	・事前学習を始めた頃に修学旅行の中止が決定されたので、中途半端になってしまった。 ・進路学習については、1・2年の時に指導した内容をほとんど理解していない生徒も見られた。	・進路学習については、引き続き1年生から継続的な指導を行っていく。	・今年度は修学旅行が中止になったので、日本の伝統文化について調べ・体験し・まとめる学習ができなかった。 3年生のキャリア教育は例年目前に迫った進路学習が中心だが、今年度は都立・私立の高校の入試の手続き等の制度の変更が多数あり、その説明等に時間を要した。
道徳	・担任だけでなく副担任も含めて1人の授業者が同じ道徳の教材を毎週違うクラスで実施するローテーション道徳を行ったことで、様々な手法で道徳授業を行うことができ、生徒もマンネリにならずに授業に参加してる。	・授業者同士が違う教材を扱っているために、発問についての情報交換などが難しいことが課題となったので、共通教材を実施する時に意見交換を活発にしていく。	・全体への共通題材をタイミングよく提示できた。実生活のことを思い浮かべ、自分自身ならどうするのかと考えるきっかけを作れた。